



発行・カトリック水巻教会
 編集・広報委員会
 遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
 〒807-0025
 TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
 第301号

ホームページアドレス <http://www1.com.ne.jp/~mizumaki>

中村教会での勉強会 広報・岩本

4月21日、新幹線の岡山駅で乗り換え、快速「しおかぜ」に乗って四国へ渡ったとき、高松市は暖かく青空でした。午後からのカテドラル桜町教会での勉強会が終わり、高松教区のイルー神父が運転する車で高知県へ移動しました。

高速道で四国山地のトンネルを抜けたとき激しい風雨に変わり、強い雨と風の中を4時間かけて、「土佐くろしお鉄道」の中村駅前の宿に着いた時はすっかり夜になっていました。

翌朝、風雨の中を神父の車で中村教会に行きました。この教会は民家を改造したもので、30名程度しか入れない小さな聖堂でした。

教会に来ている人に、この地域に何人くらい外国人がいるのかと聞くと、30名程度でしようと言われました。ミサは外国人のほうが多かったのですが20名程度の参加のようでした。

ところがミサが終り、勉強会を始めると神父が言うと、後ろから次々に人が入ってきて聖堂の隣の部屋まで外国人で一杯になり、中村地区の外国人が全員集まったような雰囲気勉強会が始まりました。

勉強会では改定入管法の概要と外国人が気を付けないといけない問題点などを説明

しましたが、参加した人は「初めて聞く話です」と熱心に聞いてくれ、説明の後は質問がたくさん出ました。

四国へ行く前に担当神父から「中村教会も行けますか」と言われたとき、これほど田舎とは思わなかったので「良いですよ」と返事しました。

しかし、実際に行ってみると足摺岬に近い寂しい町だったので、ここまで来る必要があったのかという気持ちになりましたが、勉強会を終えた後は、人数が少なくても私たちの話に興味に耳を傾けてくれ、心から喜んでくれる人たちに会って、ここまで来て良かったという満足感一杯で帰りました。

現在の日本には、中村地区のように都会から離れた町にも外国人は住んでいます。福岡県でも同様で、北九州市や福岡市だけでなく、ほとんどの市町村に外国人が住んでいます。多文化共生社会化は進んでいるのです。

からしだねの誕生に立ち会って・・・	2面
水巻教会の思い出・・・	3面
委員会等報告・・・	4面
典礼委員会・・・	5面
子どもたちのページ・・・	6面
納骨堂委員より・今月の聖人・・・	7面
おしらせ・短歌・・・	8面

—「からしだね」の誕生に立ち合っ—

竹森神父様を始め、水巻教会の皆様へ
ルイ・ベリオン神父

25年前に、山口一隆さんを中心とした広報委員の皆さんのおかげで誕生した「からしだね」が300号を迎えるようになったことを思うと、素直に静かな喜びを噛み締めます。

その歴史を築き上げたすべての方々に「ご苦労様」と共に、「おめでとうございます」と心から申し上げます。

「信徒と司祭が一つになって、水巻教会はますます主イエス・キリストを中心とした共同体となり、地域社会の中でこの共同体が「受けたもの」—「イエスの福音を伝え、証しする共同体を目指そう」と。当時の役員の方々と共にその決意をもって船出したことは、今でも私の記憶には新しいことです。

小教区において、様々な立場や考え方があることを互いに認め合い、共に理解を深め尊重し合う精神に生き、分かち合うことによってお互いの交流を豊かにしようと。そう考えた時に、広報誌は欠かせない手段であるという結論に至りました。

「ガラス張り」の約束のもと、すべての信者は教会の動きを把握し、理解出来るように、そして何より参加出来るために、道案内となる広報誌を作ろうと、その方針が定まりました。出来ることは限られており、ささやかな事しか出来ないということで検討した結果、その広報誌の名として「からしだね」が選ばれました。

振り返ってみると、「からしだね」を生み出した人たちの心には「伝達する」という意欲にあふれ、その発想の背景にパウロの次の言葉がありました。

「最も大切なこととして私があなたがたに伝えたのは、私も受けたものです」と。(第一コリントの信徒への手紙 15、3)

「からしだね」は福音の息吹に動かされて、水巻共同体の「絆」として誕生したのです。

その後、ガイヤール神父様、伊東神父様、ハーン神父様、竹森神父様のもとで、また大勢の広報委員の皆さんのおかげで、「からしだね」はその歩みを続けました。聖霊の息吹もその歩みを支えたに違いありません。共に聖霊の働きに感謝したいと思います。

紙一枚に浮かぶ黒い文字を通して、水巻共同体の心臓の鼓動が聞こえること、それは夢のようなことかもしれませんが「からしだね」はその理想を目指し続けることが出来るように、行橋から心を入れてお祈り致します。





水巻教会の思い出

ハーン・フランシス神父。



私は 2003 年4月1日
から、松永久治朗司教の依頼を受け、水巻教会の主任司祭を任命され、わずか2年9ヶ月で
したが水巻教会で勤める恵みを与えられました。

水巻教会の最初の印象は、信者の皆さんはとってもしっかりしていて、自分の教会にもの
すごい愛着を持ち、一生懸命働く人たちであることでした。そのために司祭は教会の運営の
全てをそれぞれの係りに任せて、自分の司祭職に専任しやすい教会でした。

パリミッション会の司祭が見事に信徒を育て、信徒は司祭に対する信頼も強い教会であり
ながら、神父が間違ったときには遠慮なくはっきり言ってくれました。

以前は30キロ離れている古賀教会に8年間にいたにもかかわらず、北九州地区にあまり
来る機会がなく、その地域の地理を全然知らず、道路、電車、地名などなど、全く知らない
ので、家庭訪問や他の教会へ行くこと、買い物すること等、何も分からず赤ちゃんみたいな
感じで随分迷いました。

しかし今から振り返って考えると、ほんとに幸せの時期でした。その地域の司祭をはじめ、
さらに教会の信者みなさんは本当に親切で、協力的で、私のわがままと足りなさを補ってく
ださり、守ってくれました。

水巻教会に着いた頃、私はこれまでで一番体重が重い時期で117キロほどありました。
それでアメリカの従兄弟の嫁に紹介されたダイエットに挑戦しました。その結果、当時の食
事の世話をしてくださった川脇さんの協力のおかげで、5ヶ月間で33キロ減りました。

信徒の皆さんは目の前で神父の体重が減るので、神父は病気ではないかと心配してくれた
方が沢山おられました。私は洋服のほとんどを捨てるようになり、新しい服を買ったことを
覚えています。

たくさんの思い出があります。聖書研究会のメンバーとその分かち合い、病者訪問をする
ときに手伝ってくれた姉妹たちと、その時に会った方々との思い出が沢山あります。

「からしだね」の編集者は、私のつたない日本語をいつも気持ちよく直して下さったこ
と、色んな信徒の家庭に食事会にお招きいただいたこと、最後の日に皆が設けた送別会、そ
の後色んな方々から電話があったり手紙を頂いたりしていることで、なかなか水巻教会の皆
さんが私の心から消えないのです。今も私の毎日の祈りの中で必ず水巻教会の皆さんの為
に祈っています。

今年、私は司祭叙階40周年を向かえ、日本でもアメリカでも祝いました。その記念のミ
サの中で水巻教会の皆さんと、現在の主任司祭竹森神父様のために祈りました。

この40年の間に数多くの巡り合いができて神に感謝しています。それぞれの人を通して
神様の似姿を見せて頂いてカづけられ歩んできました。これからもそうでありますように信
じていくつもりです。私の為にもお祈りください。また会える日まで。

委員会等報告

2012年6月分

6月度小教区委員会

6月3日

1. 先月の行事報告

- ・ 4月22日(日) 納骨堂利用者集会
- ・ 5月20日(日) 信徒総会 64名参加

段になる。

- ・ 設置費用は教区が負担する。
- ・ 正門を作るべきか、次回までに検討。

2. 議題

①信徒総会の内容について

●電気代の支払いについて

- ・ これまでは電気メーターは「幼稚園」と「司祭館」共用だった。そのため、司祭館分の電気代をメーターの3分の1とみなし、幼稚園に支払っていた。
- ・ メーター分離後の電気代は各々支払っており、幼稚園への支払いは無い。

2010年9月電気代 27707円(みなし)

2011年9月電気代 30877円(分離後)

●会計について

神父様からのお話があり

- 1) 教会の財布は1つ
- 2) 納骨堂基金は営繕費の名目にかわっている。
- 3) できるだけ年間予算でまかないたいが、特別の事情のときは、営繕費から使うこともある。

②水巻聖母幼稚園創立50周年について

- ・ 9月15日(土)に行われる。
- ・ 7月より1ヶ月間募金箱を設置し、信徒から募金をつのる。教会からのお祝い金と合わせて、幼稚園に渡す。

③幼稚園・教会正門設置について

- ・ 司教様より、門がないので外から見て中の様子がわかりにくいと指摘された。
- ・ 道路側に作るならスロープではなく、階

3. 各委員会から

①納骨堂委員

- ・ お盆期間中の納骨堂管理をして欲しい。
- ・ 人を募集する。

②典礼委員会

- ・ 黙想の家の中村神父様の聖書研究会が7月22日(日)午後2時から行われる。参加費無料。入館料300円。参加者を募る。

4. 土曜ミサについて

- ・ 運動会などで特別に土曜ミサをして欲しい場合は、事前に(2週間ほど前)神父に相談して欲しい。
- ・ 基本的に土曜ミサは行わない。

5. これからの活動

6月17日(日) 大人の日曜学校

6月17日(日) 北九州信徒協聖書講座

7月12日(木) 召命をともに祈る会のミサ

※北九州地区 水巻教会聖堂 14時～

ミサは谷口神父さまが行う

7月21日(土) 教会学校小学生 錬成会

8月12日(日) 北九州信徒協平和の集い

8月12日(日)～14日(火)

中高生天草巡礼旅行 2泊3日

8月15日(日) 聖母被昇天ミサ 9時半

8月26日(日) 聖堂ワックスかけ



2012年度 第2回 典礼委員会議事録

開催日時：2012年6月13日(水) 19:30 場所：信徒会館

出席者：竹森神父、山本、安永、樽角、三谷、矢田

《報告事項》

1 今後の主な予定

- ・黙想の家の集い 7月22日(日) 14:00~17:00 講師：中村克徳神父様
- ・平和の集い 8月12日(日) 小倉教会
- ・聖母被昇天ミサ 8月15日(水) 9:30
- ・典礼聖歌研修会 8月19日(日) 深堀 純氏
- ・堅信式、司教公式訪問 11月4日(日)
- ・教区の日 11月23日(祝日)

《審議事項》

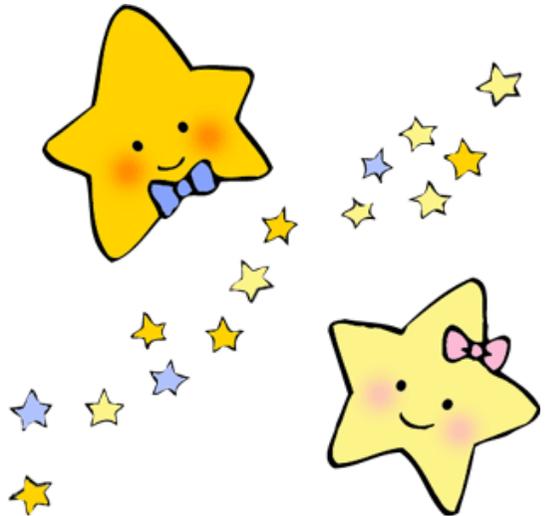
1 典礼委員会主催の黙想の家の集いについて

参加募集チラシと掲示作成：月末に配布。

テーマ：信仰を深めるために。

会次第

- 1 受付と会次第の説明(10分)
- 2 神父様の講話(約30分)
- 3 お茶と休憩(20分)
- 4 分かち合い(40分~60分)
- 5 まとめ(10分)
- 6 聖堂で祈り(10分)
- 7 片付け



2 堅信式の典礼

「よろこびの聖なる油」：塗油の時。入祭、拝領、閉祭の歌をきめる。

8月の聖歌研修会で、深堀氏に参考意見をうかがう。

- 3 クリスマスパンプは、全面更新ではなく追加聖歌などを挿入する。
- 4 オルガン奏者候補の研修：ミサの間2Fに上がってもらう。練習曲の選定。
- 5 その他

青年の集まり：社会問題を話しあう4月末、6月末？

隔月第4又は5週のミサ後に実施(三谷担当)

次回予定 2012年 7月11日(第2水曜日) 信徒会館



子どもたちへのページ

せい はなし だい かい
聖パウロの話 第8回

パウロは早くからローマに行きた
いと願っていましたが、彼の願いがな
ったのは、3回の大きな旅の後にエル
サレムで役人に捕まってからでした。
役人はパウロを捕まえたのですが、パウ
ロがローマの市民権を持っていました
ので、ユダヤで裁判にかけることが出来
ませんでした。

このころ、外国人でも自分の国を
征服しているローマ帝国の市民の資格
を持っている人はけっこういました。家
が金持ちでたくさんの税金を払ってい
たり、ローマ軍の兵隊になったりしたこ
とでローマ市民になった人の家族はロ
ーマの市民の権利を持つことが出来たの
です。パウロ家はタルソという町の金持
ちでした。

パウロを捕らえた役人は、パウロを
裁判にかけるためにローマに送ること
にしました。

パウロは、自分でローマに行くのでは

なく、捉えられた状態でローマに行く
ことになりました。これがパウロの4回
目の旅です。

この時代の地中海は冬になると波が
高く危険なため春にならないと船を
出すことが出来ませんでした。パウロが
乗った船は、しばらくすると波が高い
季節になりましたので途中で嵐に会い
大変な旅でしたがローマに着きました。

このころのローマは大きな城壁に
囲まれていましたが、パウロは城壁の
外の家に入れられました。ここでのパウ
ロの生活はかなり自由なようでした。そ
のため、各地にいるキリストの弟子たち
にたくさんの手紙を出しました。その
手紙のいくつかが新約聖書にあります。
最後にパウロはローマ市民だったので
首を切られて殺されます。

パウロの墓地のの上には「パウロ
大聖堂」が建っていて、入り口には大き
なパウロ像があります。

お盆の納骨堂についてのお願い

8月13,14,15日の3日間、午前10時から午後4時まで納骨堂を開けております。その管理のためにご協力をいただける方を募集します。

聖堂の掲示板に用紙を張りますのでよろしくお願ひします。

納骨堂委員 久保園



今月の聖人

31日 聖イグナチオ(ロヨラ)司祭

1491年ごろ-1556年

イグナチオは、スペインのバスク地方の貴族ロヨラ家に生まれ、幼いころから騎士道精神を身に付け、名誉を求めることを価値としていました。1521年、戦場で負傷し、病床にあったイグナチオは、キリスト伝や聖人伝を読んで感銘を受けました。そしてすべてを捨ててキリストに従う決心をし、マンレサに退いて、祈りと苦行に専心しました。このときの霊的体験が、有名な著書「霊操」を生みだしました。それから、ローマとエルサレムに行き、ヨーロッパに戻りパリ大学で勉強をしました。学友の中から6人の同志を集め、パリのモンマルトル聖堂で、「より大いなる神の栄光のために」、また「すべての人のために」働くことを誓って、「イエズス会」を創立しました(1540年に正式に認可)。そのなかには、日本の最初の宣教師であるフランシスコ・ザビエルもいました。



現在会員は、世界各地で、教育など多くの分野で活躍しています。日本では、東京の上智大学をはじめ、鎌倉市、神戸市、広島市、福岡市などでの教育事業や、黙想指導、教会司牧、社会正義など、社会の中で人々の必要のために働いています。



7月のみらいせ

★召命をともに祈る会のミサ★

日 時：7月12日(木)14時～

場 所：水巻教会 聖堂にて

召命をともに祈る会のミサが、水巻教会で
あります。ミサは谷口神父さまが行います。

★黙想の家 研修会★

日 時：7月22日(日)

午後2時～5時

場 所：カトリック黙想の家(宗像)

テーマ：信仰を深めるために

講 師：中村 克徳 神父

入館料：300円

詳しくは、教会の後ろの棚に案内の紙が
置いてありますので、ご覧ください。参加
申込書も、その用紙に付いています。

★教会学校錬成会★

日 時：7月21日(土)

今年も教会学校の1日錬成会を行いま
す。時間や場所、内容など詳しい事は、ミ
サ中のお知らせや掲示板等をご覧ください。

※今月は、原稿の関係で教会学校のペ
ージはお休みします。

★水巻聖母幼稚園創立50周年★

水巻聖母幼稚園が、今年で50周年を迎
えます。そのお祝いを9月15日(土)に行
います。そこで、7月から1ヶ月間、募金
箱を教会に設置します。

皆様のご協力をお願いします。

折尾地区

西山寿美枝さんの短歌

朝顔の小さきピンク並び咲き

ひとつの花が話しはじめ

梅雨晴れの川辺をゆけば石の上

亀の一匹微動だにせず

梅雨晴れの水量計は白き線

鮮かやに引き砂の上になつ

何処より迷いし蝶がカレンダーに

とまり羽博くおのが位置しめ

どの川も海につながる炎天下

吠ゆるがごとく牛蛙鳴く

積乱雲次々湧きて重なりぬ

天気予報のむずかしき夏